

杉戸 好きな詩を腹から歌う

すぎスポ詩吟教室

R3. 10. 4 (土)



杉戸町の「すぎスポ詩吟教室」は西公民館で毎週水曜日の午前中に詩吟

を勉強しています。

NPO法人「杉戸町総合スポーツクラブすぎスポ」が主催する同教室は平成25年9月に始まり、現在は5人の会員がいます。

11月17日は、腹式呼吸で発声練習の後、全員で一度漢詩を吟じ、それぞれが選んだ漢詩や俳句、和歌を一人ずつ順番に吟じました。

漢詩の次に俳句「梅一輪一輪ほどの暖かさ」を吟じた金子俊一代表(73)は、「趣味を作ろうと思いついた前に少しやっていたのを定年後に改めて始めました。詩吟は腹式呼吸なので内蔵の強化や肺の活性化などの健康に良いと思います」と話します。

8年目の

金子代表(手前)と会員が一緒に吟じる

町民の森洪さん(79)は「詩吟は内臓の体操と言われているので、健康のためにみんなに勧めたいです」と俳句「老の身は」を元気に吟じました。

漢詩「春望」を吟じた幸手市の長谷川澄男さん(74)は「詩吟は漢詩を覚えるのにちょうど良いし、歌うのも面白いので続けています」と楽しそうに話します。

吉野二郎さん(75)は「息継ぎなどが違います。詩吟は難しいけど、謡曲とは別の楽しさがあります」と話します。

いたま市の昆野まさ江さん(72)は「漢詩と発声に魅了されて半年前に始めました。まだ皆さんの足元にも及びませんが、長く続けたいです」と笑顔で話します。

金子代表は「今の人は詩吟に接する機会がほとんど無いので、始める人が少ないのが悩みの種です。もっと参加者が増えればありがたいです」と話しました。